



# 生徒が主体的に研究し、発表する 千葉県における「生徒地理研究発表大会」の取り組み

写真・文 千葉県立船橋芝山高等学校 上野 剛史

千葉県高等学校教育研究会地理部会は、千葉県内の高等学校で地理の授業を担当する教員や地理を専門とする教員によって構成され、研究大会や巡検等の研修会を行い、地理教育の充実のためスキルアップに努めている。その行事の一つとして、生徒が地理学習の成果を発表する「生徒地理研究発表大会」を年1回毎年実施しており、今回（2016年度）で51回目を迎えた。本稿ではこの発表大会の取り組みについて紹介する。

発表大会では、生徒が調査・研究した成果を1グループ15分程度で発表する。今回は7校から15本の発表があった。テーマは、地理の授業で課題として取り組んだもの、クラブ活動で継続的に調査したもの、興味をもった生徒が集まったグループで調査したもの、地域との協同でつくりあげたものなど、その取り組み方はさまざまである。分野も人文地理、自然地理、地誌と多岐にわたっており、さらに現代社会の抱える問題やその解決策を複合的にとらえ考察するなど、地理学の領域の広さを象徴している（表1）。また、ここで発表されたものの一部は、千葉地理学会での研究発表や日本地理学会の高校生ポスターセッションにも参加している。

研究活動は、文献やウェブサイトによる調査（写真①）、対象地域のフィールドワークによる調査、博物館・資料館等を活用した調査等によって進められ、とくに学校外での現地調査や聞き取り調査は、普段の授業ではなかなか実施できない大変有意義な時間となっている（写真②③④）。また、発表の中では、国土地理院発行の地形図やウェブ上の地図等を上手に活用し、さらに調査により明らかになった事から自ら図化することで、立派な分布図やグラフ等が作成され、効果的に掲示される。そうした素材を十分に準備し、各校で発表練習なども行われた成果か、発表大会は大変順調に進み、どのグループも研究内容をわかりやすくいねいに発表することができていた（写真⑤）。質疑応答の時間には、教員からの質問・助言だけでなく、各校の生徒同士でのやり取りもみられ、有意義な議論が展開された。また、今回は司会・進行係や時間（ベル）係も生徒が務め、「生徒による」研究発表大会という形式を強調して実施することができた（写真⑥）。

研究過程では、資料の収集・分析やプレゼンテーション形式にまとめる作業に多くの時間がかかり、指導を行ううえで多少の困難を伴うこともあるが、生徒が研究活動の充実に向けて探求する姿や現地調査時にみせた積極的な行動からは、研究を自分たちの手でつくりあげ、ほかにはない「オリジナルの研究」にしようという高い意欲と主体的に学ぶ姿勢がうかがえる。活動を通して、生徒は地理的な見方や考え方、地域調査の方法とそのまとめ方、資料を収集・分析する地理的技能、効果的なプレゼンテーションの方法等を身につけ、深めることができるものと考えられる。

そうした「アクティブ・ラーニング」によりはぐくまれた力は、地理学習だけでなく、進路活動や職業選択等にも生かされる可能性があると考えられる。発表大会に参加した生徒には、この経験を生かし、その後の高校生活や「持続可能な社会」を構成する人材として活躍することを願う。今後も多くの生徒が地理を楽しく、主体的に学ぶことができるよう、生徒に刺激を与え続けることが、私たち地理教員の使命なのかもしれない。

表1 2016年度の発表一覧

No.	研究テーマ	高等学校名／研究グループ名
1	千葉市街地における商業中心地の移動に関する考察	県立千葉高等学校地理部
2	印旛沼における干拓事業と自然環境の変容	県立船橋芝山高等学校
3	WORLD SKY GATE_NARITA	県立市川昂高等学校
4	バス路線の今昔物語	県立千葉高等学校地理部
5	新京成線における乗降客数の変容	県立船橋芝山高等学校
6	韓国ソウル近郊の交通事情	県立千葉高等学校地理部
7	シミュレーションゲームと地理	県立千葉高等学校地理部
8	学校周辺の地形を学ぶー「等高線ケーキ」を作ろう	県立船橋芝山高等学校
9	ジンバブエのHIV/AIDS事情ーウガンダと比較してー	専修大学松戸高等学校
10	市街地と都市計画道路	県立東葛飾高等学校鉄道研究部
11	南房総市から見る市町村合併	県立東葛飾高等学校鉄道研究部
12	伝統的な町並みの中の居場所づくり「さわらぼ」	県立佐原高等学校まちづくりプロジェクト（SMP）
13	市原里山地域の魅力と課題	県立東葛飾高等学校鉄道研究部
14	韓国訪問を終えて	JENESSYS 2015 市立銚子
15	表と裏の世界ーコーヒーの悪夢 in Ethiopiaー	専修大学松戸高等学校



① 文献で調査する生徒たち



② 調査地域を巡検し、聞き取り調査等のフィールドワークにより研究を充実させる



③ 博物館や資料館も活用して情報を収集する



④ 旧市街地の模型を囲んで今後のまちづくりを議論する生徒たち



⑤ 研究をスライドにまとめ、わかりやすく発表する



⑥ 司会・進行等の運営も生徒が行うスタイル